

施策の方向性 資源・エネルギーの有効利用

11 汚泥焼却熱を利用した温水プール

下水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
入江崎総合スラッジセンターの汚泥焼却工程から発生する余熱を、隣接する入江崎余熱利用プールや管理棟の空調・給湯設備などの熱源として利用する。	○平成24年度供給熱量 電力量換算 約737万kWh/年 (CO ₂ 削減効果※約3,400t/年)	○平成25年度供給熱量 電力量換算 約737万kWh/年 (CO ₂ 削減効果約3,800t/年)	
	※CO ₂ 削減効果 CO ₂ 削減効果の算定については、各年度の電気事業者ごとの実排出係数を使用し算出している	評価	B

3か年計画の総括	今後の取組												
○汚泥焼却工程から発生する余熱の有効利用を継続実施 [3か年の供給熱量]	○汚泥焼却工程から発生する余熱の有効利用を継続実施												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>供給熱量</th> <th>CO₂削減効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23年度</td> <td>約737万kWh/年</td> <td>2,800 t/年</td> </tr> <tr> <td>H24年度</td> <td>約737万kWh/年</td> <td>3,400 t/年</td> </tr> <tr> <td>H25年度</td> <td>約737万kWh/年</td> <td>3,800 t/年</td> </tr> </tbody> </table>		供給熱量	CO ₂ 削減効果	H23年度	約737万kWh/年	2,800 t/年	H24年度	約737万kWh/年	3,400 t/年	H25年度	約737万kWh/年	3,800 t/年	
	供給熱量	CO ₂ 削減効果											
H23年度	約737万kWh/年	2,800 t/年											
H24年度	約737万kWh/年	3,400 t/年											
H25年度	約737万kWh/年	3,800 t/年											
評価	B												



入江崎余熱利用プール

12 高度処理水の有効利用

下水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
入江崎水処理センターで高度処理した水を、川崎ゼロ・エミッション工業団地に提供し、再生紙を製造する過程で有効利用されている。 また、等々力水処理センターの高度処理水を江川せせらぎ水路へ送水し、水辺環境の回復を図っている。	○川崎ゼロ・エミッション工業団地へ提供 ○江川せせらぎ水路への送水	○川崎ゼロ・エミッション工業団地への提供水量 462万9,952 m ³ /年 ○江川せせらぎ水路への送水量 249万5,014 m ³ /年	
※ゼロ・エミッション 産業活動から排出される廃棄物を他の産業の資源として活用し、全体として廃棄物を出さない生産のあり方をめざす構想		評価	B

3か年計画の総括	今後の取組												
○高度処理水の有効利用を継続実施 [3か年の有効利用量]	○高度処理水の有効利用を継続実施 ○施設の再構築、高度処理化にあわせた再生水のさらなる利用について検討を実施												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>川崎ゼロ・エミッション工業団地</th> <th>江川せせらぎ水路</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23年度</td> <td>401万5,846 m³/年</td> <td>275万5,102 m³/年</td> </tr> <tr> <td>H24年度</td> <td>414万4,002 m³/年</td> <td>250万1,515 m³/年</td> </tr> <tr> <td>H25年度</td> <td>462万9,952 m³/年</td> <td>249万5,014 m³/年</td> </tr> </tbody> </table>		川崎ゼロ・エミッション工業団地	江川せせらぎ水路	H23年度	401万5,846 m ³ /年	275万5,102 m ³ /年	H24年度	414万4,002 m ³ /年	250万1,515 m ³ /年	H25年度	462万9,952 m ³ /年	249万5,014 m ³ /年	
	川崎ゼロ・エミッション工業団地	江川せせらぎ水路											
H23年度	401万5,846 m ³ /年	275万5,102 m ³ /年											
H24年度	414万4,002 m ³ /年	250万1,515 m ³ /年											
H25年度	462万9,952 m ³ /年	249万5,014 m ³ /年											
評価	B												



江川せせらぎ水路

環境方針③ 健全な水循環・水環境の創出

施策の方向性 水資源の確保・有効利用

13 水源地保全事業

上水 工水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
<p>神奈川県及び他の水道事業者と共同で相模湖及び津久井湖の水源地及び水質の保全に係る取組（相模湖湖底に堆積した土砂の浚せつ、相模湖及び津久井湖へのエアレーション装置※の設置等）を進める。</p> <p>※エアレーション装置 湖に揚水筒という筒を立て、筒の底から空気を注入することで大きな泡をつくり、この泡と一緒に湖底の冷たい水を湖の表面に運ぶことにより、アオコの発生を防ぐもの</p>	<p>○相模湖の浚せつ量 計画値 15万m³/年</p>	<p>○平成25年度相模湖の浚せつ量 12万6,090m³/年</p>	
		評価	C

3か年計画の総括		今後の取組						
<p>○いずれの年度も計画値である年間浚せつ量15万m³を下回ったが、エアレーション装置の設置等の総合的な取組により水源地を保全</p> <p>[3か年の浚せつ量]</p> <table border="1"> <tr> <td>H23年度</td> <td>14万5,600m³/年</td> </tr> <tr> <td>H24年度</td> <td>13万2,200m³/年</td> </tr> <tr> <td>H25年度</td> <td>12万6,090m³/年</td> </tr> </table>		H23年度	14万5,600m ³ /年	H24年度	13万2,200m ³ /年	H25年度	12万6,090m ³ /年	<p>○神奈川県、他水道事業者と共同で相模湖及び津久井湖の水源地水質の保全に係る取組を継続実施</p>
H23年度	14万5,600m ³ /年							
H24年度	13万2,200m ³ /年							
H25年度	12万6,090m ³ /年							
評価	C							



相模湖での浚せつの様子

14 安全な飲料水の確保

上水

取組概要	進行管理の指標	平成25年度の取組結果	
<p>○神奈川県や他の水道事業者と連携して水源の水質保全に係る取組を実施</p> <p>○水質検査計画※に基づき、水源から給水栓までの水質検査を実施し、安全な飲料水を確保</p> <p>○水安全計画※に基づき、水源から給水栓までのリスクマネジメントを行い、より一層の水源地の安全性を確保</p> <p>※水質検査計画 水道法施行規則では、水道事業者に対して、採水の場所、検査項目、検査の回数などを定めた「水質検査計画」の策定を義務付けており、毎年度ホームページなどで公表</p> <p>※水安全計画 WHO(世界保健機関)では、食品分野の衛生管理手法の考え方を導入し、水源から給水栓に至るすべての段階で危害評価と危害管理を行い、安全な水の供給を確実にする水道システムを構築する「水安全計画」を提唱しており、厚生労働省も、水道事業者に対して策定するよう推奨</p>	<p>○相模川酒匂川水質協議会において水源水質保全に関する事業計画を策定・実施</p> <p>○水質検査計画を策定し、計画に基づき水質検査を実施</p> <p>○水安全計画に基づく水質管理を実施、水質管理の継続的改善を実施</p>	<p>○相模川酒匂川水質協議会において水源水質保全に関する国への要望活動や農業共同調査等を実施</p> <p>○平成25年度水質検査計画を策定し、水質検査を実施（水道水の検査結果はすべて水質基準等に適合）</p> <p>○浄水・配水各部門ごとの水安全計画に従い水質管理を実施（リスクの見直しにより標準対応マニュアルの追加）</p>	
		評価	B

3か年計画の総括		今後の取組
<p>○相模川酒匂川水質協議会において水源水質保全に関する国への要望活動や農業、ダイオキシン、病原微生物等の調査を実施</p> <p>○毎年度開始前に水質検査計画を策定し、計画に基づき水質検査を実施（水道水の検査結果はすべて水質基準等に適合）</p> <p>○水安全計画に基づく水質管理を実施（浄水施設の変更やリスクの見直しに対応して水安全計画の改善を実施）</p>		<p>○引き続き、水源の水質保全対策、安全な飲料水の確保に向けた取組を実施</p>
評価	B	



水源調査の様子